令和６年度　第１回富山県スポーツ推進審議会議事録

１　日　時　　令和６年７月２６日（金）１５時００分～１６時３０分

２　会　場　　県庁４階大会議室

３　出席者

（１）委　員　　荒谷委員、植野委員、大橋委員、紙谷委員、北田委員、櫻打委員、
坪内委員、東瀬委員（副会長）、中村委員（代理：県高等学校体育連盟木倉副会長）、
堀田委員（会長）、三角委員、山木委員、山田委員

（２）事務局　　竹内生活環境文化部長、杉田理事・生活環境文化部次長、新保スポーツ振興課長、
堺課長【富山マラソン推進担当】、野中課長【スポーツ環境充実担当】、
スポーツ振興課職員、県教育委員会保健体育課職員

（３）県出席者　障害福祉課長、高齢福祉課長（課長補佐）、健康課長（課長補佐）、
都市計画課長（副係長）
※（　　）は代理出席者

４　次　第

（１）開　会

（２）竹内生活環境文化部長　挨拶

（３）委員紹介（新規委員２名）

（４）堀田会長挨拶

（５）議事

〇審議事項

・「新たなスポーツプラン」の骨子案について

資料１　　現行スポーツプランの概要
資料２　　国の第３期スポーツ基本計画の概要
資料３　　国のスポーツ基本計画の比較（第２期と第３期）
資料４　　前回（R6.３月開催）会議における主な意見
資料５　　新たなスポーツプランの骨子案と現行プランの比較
参考資料　新たなスポーツプランの主な取組案（事務局案）

【概要説明】新保スポーツ振興課長

【質疑応答】【◎は議長（会長）、〇は委員意見及び質問要旨、◆は事務局説明】

◆　資料に基づき、スポーツプラン改定の骨子案について概要を説明。

◎　確認だが、このプラン改定は 2030 年からのものに反映させるということか。

◆　本年度は、県の第２期スポーツプラン（2020 年～2029 年）の中間年度である。従って、第２期のものを改定するということであり、令和７年度からその運用を行いたい。

◎　現在のものを修正するという理解で良いか。

◆　その理解の通りである。

◎　承知した。それでは、委員の皆様のお立場からご意見を伺いたい。

○　（県民誰もがスポーツに親しむ環境の充実について発言）。子供のときからスポーツに親しんでいると、大人になってもスポーツを続けていく力が身につく。そのことから、小さいころにオリンピック選手のプレーを間近で見る、親しむ機会が重要ではないか。「わたしもあのような姿になりたい」と感動し、元気や力が出て成長する。県民誰もがスポーツに親しむ環境づくりとして、ぜひオリンピック選手を呼んで、子供達と交流する機会があれば、子供達がさらにスポーツに興味をもつきっかけになると思う。

◎　トップアスリートと交流する機会づくりの推進は重要な役割である。

○　障害者スポーツ振興の観点で発言する。3 年前の東京パラリンピックのボッチャ、車椅子バスケットボール競技では、本県の選手が出場し、それ以降、パラスポーツに対する県民の皆様の関心が非常に高まった。また、ボッチャや車椅子バスケットボールの備品貸出数が増加した。施設も含め、学校関係、小・中・高校の総合的な学習の時間を利用した障害者理解という目的で、障害者スポーツを体験しようという動きがここ数年高まっている。障害者スポーツ協会では、障害者スポーツの推進事業として 19 のスポーツ教室を開催し、障害者の方と健常者の方を交えての教室、障害者の方同士の交流を深める事業を開催しており、年々教室数も増えてきている。障害者スポーツの世界では、「失ったものを数えるな、残されたものを最大限に生かせ」という言葉があり、通常のスポーツ以上に感動を得られるものが大きいことから、県民の皆様に推進していきたい。

◎　同じ道具を使えば、健常者、障害者関係なく楽しめるという「インクルーシブ」の考え方である。これから、ますます重要な要素になってくる。

○　現在、ワールドラグビーコーチエデュケーターというコーチへの指導資格を取得し、全国で開催されるコーチ講習会の講師を務めている。トップレベルの選手を育成する観点では、トップレベルの指導ができる指導者を育成する必要があると感じる。前回の会議でも意見が出たが、近年、スポーツ成績の優秀な中学生が県外の高校に進学している。そのことから、県内でトップアスリートを育成することができる優秀な指導者を育成していくことが重要であると思っている。指導者の学び直しの機会を提供することで、常にブラッシュアップをし、新しいスキルや戦術等を指導できる指導者を育成できるシステムが構築できたら良い。
ハンドボールチーム「富山ドリームス」の話であるが、デュアルキャリアということで、競技と仕事の両立を目指して、選手をアスリート採用している企業が増えて

いる。こういった取り組みをしっかりフォーカスをして、県民をトップアスリートとして育成することも必要だと思う。また、Ｉターンという形で、トップアスリートを富山県で受け入れ、富山県で世界を目指してもらうというようなシステムができれば良いと思う。

◎　アスリートで、競技引退後に仕事がない、次に何をやればいいのかということが問題になっている。その環境が整備されると富山県に戻ってくる、あるいはＩターンで来るという人も増えてくるのではないか。

○　スポーツ少年団では、幼少期からスポーツに親しみ、関わることで豊かな心と身体を育てている。近年、スポーツ少年団に入る子供が減少し、色々な団体が苦心している。チーム数の減少や合併、活動の場所も少なくなってきている。スポーツをしない要因を周りの方に聞いてみると、親が過去にスポーツを行って苦労した体験から自分の子供にさせたくないという回答があった。そのことからスポーツ少年団では、遊びからスポーツに関わっていくような動きを進めているが、なかなか団員を増やせない。スポーツという言葉があまりいい意味で浸透していないのではないか。前回の会議でも発言したところであるが、これからのスポーツは、遊びがスタートである。遊びと言うと大人も子供も集まり、体と頭と人とのコミュニケーションをうまく使いながら、結果的には遊びからスポーツに向かっていく。遊びは関係人口の創出にも大きな良い影響がある。子供が遊んで体を動かすと、関わる両親や祖父母、その周りにいる人たちが協力することで、スポーツに関わる人口が自然に増える流れが生まれてくるのではないか。新たなプランを見たときにそう感じたところである。

◎　遊びからスポーツへという流れは大事である。スポーツに取り組むきっかけは全部遊びから始まると思う。

○　スポーツ推進委員は、校区毎に活動しており、校区毎に計画を立て、住民運動会やソフトボール大会、ビーチボール大会等を行っている。これまでスポーツ推進委員が計画して事業を行ってきた。しかし、仲間が住んでいる自治会では、コロナを機に「住民運動会はもう開催しなくていい。コロナ禍で実施しなくても住民から何も意見がなかった。予算も使わなくてよくなった。」と言われることが多くなった。
自治会の力というものは非常に大きく、地域によっては住民運動会をはじめスポーツ大会を行わなくなっており、（スポーツ推進委員は）活動の場を失っている。今まで「スポーツ推進」としてやってきた考えが様変わりした自治会もあるようだ。
トップアスリートに触れる機会はもちろん大事だが、地域の住民運動会で大人が走る姿や、支えている姿を子供達に見せる機会が減っていることに危機を感じている。朝間野球やママさんバレー人口も減少し、大会も参加者が集まらない。スポーツに親しみやすいよう遊び要素が高いニュースポーツのカローリングやモルック等のスポーツ大会を開催しているが、子供たちには既存のスポーツであるサッカーや野球、バレーボールといったスポーツに取り組んで欲しい。

◎　オリンピックでも、我々が今まで聞いたことのないような種目が出てきて、多分そういった種目の方が今の子供たちにとっては興味があるのではないか。そうするとますます身近な大人がスポーツをする姿を見なくなる懸念は確かにある。

○　基本施策２の大きな柱に「地域と連携した」が追記され、学校で行っていた部活動が地域クラブ活動へ移行するという点で重要だと感じている。中学生段階においては「体力向上のため、何かしら運動部に入った方が良い」という考えがあり、多く

の生徒が運動部活動に加入していた。ところが地域移行となると、部活動に加入する人口が減少することが予想される。部活動には、放課後に、誰もが気軽に大きな経費もかけずに参加できるという良さがある。一方、地域移行となると一旦家に帰り、道具を持って別の会場へ行くという、非常にハードルの高いものになっていく。地域移行が進むことでスポーツから離れる生徒、特にスポーツに関わらない女子生徒が増えるのではないかと懸念している。
基本施策２には体力向上の方策も示されているが、今後、体力が低下するのではないかと感じている。学校としては週３回ある体育の授業の充実がますます重要になってくる。参考資料にある今後の方針案に様々な体力向上の取組案が記載されているが、学校における体力向上の取組として、授業を契機に運動に親しむことや、体力はなぜ必要かということを学ぶ機会、運動の楽しさを味わうという項目が必要ではないか。県教育委員会の力もいただきながら、週３回の保健体育の授業（運動機会）をさらに充実させることを、今後考える必要があると思う。

◎　私も富山県体力向上推進委員だが、持久力は低下していて、なかなか向上しない。現場の先生方も悩んでおり、やはりタブレット等のデジタルツールを見る時間がものすごく長いというアンケート結果である。持久力をつけるためにはどうしても時間が必要なので、その時間をどう確保するかが課題である。

○　基本施策３「全国や世界の檜舞台で活躍できる選手の育成」について、骨子案や今後の主な取組案を見ると、大変重要な要素が含まれており、非常に良いと思う。先ほどから話が出ているが、パリオリンピックが開催されており、子供から大人まで、誰もがスポーツに興味関心をもつ機会である。特にその中でもスポーツを行っている小学生、中学生、高校生においては、「自分もあの舞台に立ちたい」と思い、憧れや目標、夢をもつ良い機会でもある。
これを機に、特にジュニア選手の育成・強化において、見つけて、育てて、活かすことが、今後のトップアスリート、世界で活躍できる選手の育成に繋がると思う。
さらに、部活動の地域クラブ移行により、ジュニア年代、子供たちを取り巻くスポーツ環境が大きく変わっている。その環境において競技団体との連携だけではなく、地域や地域のスポーツクラブなどと連携しながら、環境を整備していくことがこれから重要であると思う。

◎　競技力向上には地域との連携も欠かせないと思う。

○　先ほどから話題になっているパリオリンピックで、多くの本県関係選手が主力としての活躍が期待されていることを大変喜んでいる。これは本人及び競技団体の努力はもとより、県のこれまでの合宿遠征の強化費補助、マルチサポート等の選手強化事業の施策及び支援の賜物である、関係者に感謝申しあげたい。
バスケットボール、水球、ハンドボールの団体球技では八村選手、稲場選手、安平選手が、日本の絶対エースとして活躍が期待されている。これは県民、私にとっても誇りで、団体競技で本県選手がエースとして活躍することは大変素晴らしいことである。また、ウエイトリフティングの村上選手やバスケットボールの馬場選手、水球の稲場選手、ホッケーにバックアップ登録された高島選手らは、本県で育ち、国民体育大会やインターハイでも大活躍し、県のこれまでの強化に係る施策の成果が出ているものと評価できる。
今回のプラン改定の大きなポイントとしては、少子化と教員の働き方改革、これを背景にした部活動の地域クラブ移行（地域連携）、中学生年代のスポーツ環境の整備等の課題にどうアプローチしていくかがポイントではないか。また、新型コロナウイルスによって生活様式が変わり、大人のスポーツに対する考え方も変わっている

ことについても、プランを改定するにあたって大事なポイントだと思う。加えて、国の計画も踏まえて提示されたプラン骨子案については、事務局のご尽力について敬意を表したい。
私が関係している基本施策３「全国や世界の檜舞台で活躍できる選手の育成」の部分について異論はない。
柱立てについては、先に意見のあった指導者育成に係るＩターン、Ｕターンについては賛成だが、これをどの柱に織り込むかは難しい。異論はないが２点について意見を述べる。
１点目は中学校部活動の地域移行に関連して、基本施策２の２「地域と連携した学校体育スポーツ活動の充実」について、この変革は生徒の体力向上や健康なライフスタイルの確立にとどまらず、基本施策３の「トップアスリート育成、競技力向上」にも大きな影響があると考えている。そのことから基本施策３の１に記載のあるジュニア選手の育成・強化の項目について、中学生年代の強化に触れる必要があるのではないか。
もう１点は、基本施策３の１に追記された「ＩｏＴ、ＤＸを活用した競技力向上事業の推進」について、国においても、スポーツＤＸの推進、自動解析技術を用いたスポーツの戦術分析、ＡＩを活用した選手のパフォーマンス分析など、競技力向上に大きな効果が期待されている。一方で、機械の信憑性や信頼性、それらを使いこなす人材育成、機器のグレードによっては相応の予算措置が必要と思われる。よって、具体的施策欄を「スポーツ医科学、デジタル技術等を活用した競技力向上事業の推進」とし、主な取組欄に「ＩｏＴやＤＸ、ＡＩ」の内容を記載とするのはどうか。

◎　競技力向上の柱の部分で、大事な意見である。確かに基本施策２に記載のある「地域との連携」が充実すると、基本施策３の全国や世界の檜舞台で活躍できる選手の育成に結びつくイメージはある。

○　基本施策の２について、少子化や働き方改革により、高校現場では日本の文化である部活動が衰弱している。私自身は水球競技の指導を行っており、水球は部活動という位置付けよりも地域クラブに集まって活動している。よって部活動の地域移行ということに関して水球に影響はないが、学校現場にいて感じることは、生徒たちは部活動を楽しみにしているということである。
学校も部活動からエネルギーをもらい、学校が成り立っているという一面もある。今、学校部活動で行う日本式から、地域クラブで行うヨーロッパ式に変わろうとしており、スポーツをする形が混在している状況である。その中で生徒たちは、やりたい（スポーツ）と興味のあるスポーツができる環境が整っていれば、部活動や地域クラブ、あるいはスポーツ少年団、総合型スポーツクラブであっても、全く問題はないと思う。
好きな種目が身近で実施できないために、そのスポーツを諦めてしまうということがないよう、我々で道をつける必要がある。
また、学校ではスポーツエキスパートや部活動指導員の配置に県で予算をつけて活動しているが、学校でスポーツに取り組める部活動の文化をできる限り最後まで残して欲しいというのが、現場にいる教員の思いである。
基本施策５のスポーツコミッションについて、大変素晴らしい発想で、これからの時代はスポーツツーリズムの考え、一つのスポーツクラブだけではなく、企業や学校、自治体等スポーツに関連する様々な団体を巻き込んで良い形を生み出す、その中心「HUB 的要素」となる役割を果たすのがこのスポーツコミッションだと思う。これから大切な考え方だと思うことから強く、進めていただきたい。
その中で、例えばプロ選手やトップアスリートとの交流は良い機会ではないか。子

供たちは素晴らしいプレーを見て感動し、エネルギーをもらえると思う。そのような環境が整えば、競技力も自然に向上し、地域への貢献や地元のチームに対する愛着が芽生えるのではないかと思う。

◎　スポーツに関する情勢は変わってきているが、スポーツコミッションは確かに非常に貴重な考え方だと思う。企業等を巻き込むことで、選手のサポート等もできるのではないか。これから考えるべき項目だと思う。

○　基本施策２について、親の立場として自分の子供が通う中学校のことであるが、入りたい部活動が少なく、子供たちがスポーツを諦める実態もあると思う。
教師の働き方改革もあるが、入りたい部活動がないという実態が少しずつスポーツ離れを促進しているのではないか。また、部活動に入らない子供が増えてきていることについて、対応を考えなければならないのではないか。
高校生の子供は部活動に入っているが、少人数のため、活動が難しい状況である。子供が部活動に入らなくなっている現状である。

○　「県民誰もがスポーツに親しむことができる環境の充実」の観点で意見を述べる。
テニス大会の運営に携わっているが近年、猛暑により活動を縮小している。試合日程や計画等を工夫して開催しているが、熱中症の疑いにより大会中に救急車を依頼したこともある。夏休み期間にはジュニアの大会も３つ開催しており、昨日もなんとか無事に終えることができた。このような状況のため、今後、大会をやめたり、縮小したりしたほうが良いのではという意見が出てきている。
テニスはコートが８面あれば大会ができる。例えばその８面に簡易な車庫のような屋根があれば、夏であってもＷＢＧＴ（暑さ指数）の基準値がクリアでき、開催することができるのではないか。また、冬は雪が降るため 11 月には大会やイベントを終えなければいけない。季節気候に関わらずスポーツができる施設があれば冬の期間も雪を避けて大会ができ、１年中スポーツを楽しむことができる。
新型コロナウイルス感染症によってスポーツ活動が制限された。新型コロナウイルスは事前に予測できないこともあったが、この気候変動による暑さについては事前に予測できる。５年後、10 年後はますます暑くなるのではないか。分かっていることであれば、何らかの対策ができるのではないか。スポーツ施設の機能充実について検討いただけたらと思う。

◎　県の方で検討いただきたい。

○　スポーツ医科学サポートの項目について述べる。国の第３期スポーツ基本計画では、「スポーツを実施する者の安全・安心の確保」の項目が盛り込まれた。レジャー・スポーツ、子供の遊び、運動会、学校の体育、スポーツ大会等、あらゆる場面で熱中症のリスク、コロナを含めた感染症リスク等が近年、顕在化している。それに伴うリスクをいかに回避するか、許容しながら安全にスポーツを実施するかについて、知恵を絞ることが私の立場である。また、外傷やけがの防止、競技力向上やトレーニングを行う上での安全・安心を推進していくことも重要である。
一例であるが、国体に帯同中、試合開始直後に肩をゴールポストにぶつけて、けがをした選手がいた。私は簡単な診察をして、選手と話をし、出たいと申し出たことから出場を許可した。本当に駄目なときは出場を止めないといけないが、選手が大会中にけがをして、その時点で出場を止めるのか、出場させるのかを判断することは、ある程度の知識、経験が必要である。富山マラソンもサポートに行くが、熱中症も同じ考えで、止めるかどうかを判断することについても、ものすごく難しい。
また先日、日本スポーツ協会の加盟団体代表者会議で議題になった案件で、ドクタ

ーが大会等のサポートに行く場合には、文書で契約を結ぶ必要があるのではないか、という話題があった。そのような環境整備も今後、必要になってくる、指導者を含めコミュニケーションを取りながら安全・安心について議論を進めていけたらと思う。本プランについても、スポーツを実施する上での安全・安心について記載する必要があるのではないかと考える。

◎　基本施策策４の２の１スポーツ医科学サポートの充実の話になる。選手や指導者１人だけで何かできるということはない。お互いがコミュニケーションを取りながら情報共有することが必要だと考える。

◎　質疑応答

○　プラン改定について、参考指標、数値目標も変わってくるか。

◆　中身が変わるものについては、一旦その指標については見直す予定である。

◎　本日欠席の委員の方からご意見が届いているようであれば、事務局の方から紹介願う。

◆　人口減少が加速する中で、県外や国外からより多くの人が富山県を訪れることで、その経済効果を県内に広く波及させる取り組みが重要ではないか。
スポーツコミッションにおいて、全国レベルのスポーツ大会や、県外の学生の合宿誘致、あるいは国際大会における国外の調整キャンプ地として、富山県に誘致する、あるいはそれを支援するということに取り組み、富山県をアピールすることは大変よいことではないか。
企業としては、選手やチームを抱えることはできなくても、取り組みを支援する面での協力をしていただける企業はあるのではないか、趣旨や目的を明確にして理解・支援をいただけるよう進めていけばよいと思う。

スポーツ関係の事業は範囲が広く多岐にわたる事業であるため、関係団体との連携、協働の強化が必須となる。
スポーツコミッションについては県内各自治体のスポーツ担当、教育委員会やスポーツ協会、あるいは社会福祉協議会、競技団体、経営者協会など、様々な方面の団体とのハブ拠点（中心）となることを期待している。

５　閉　会
竹内生活環境文化部部長　挨拶

６　事務連絡（事務局）
第２回富山県スポーツ推進審議会を１１月に開催予定。